

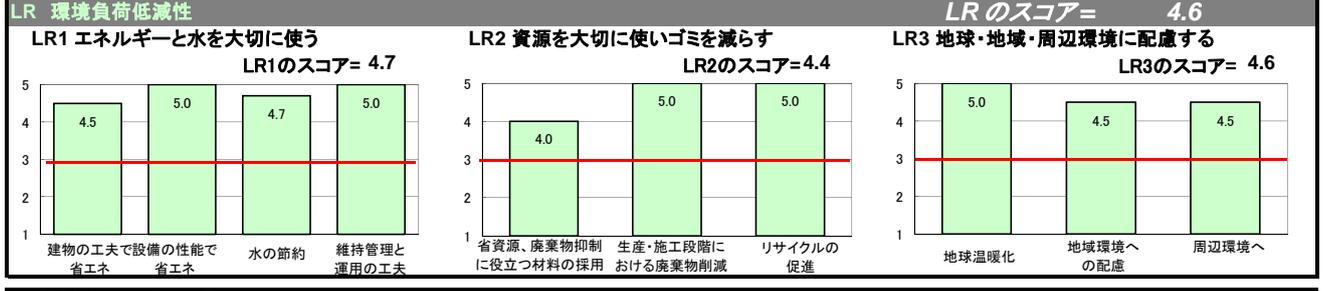
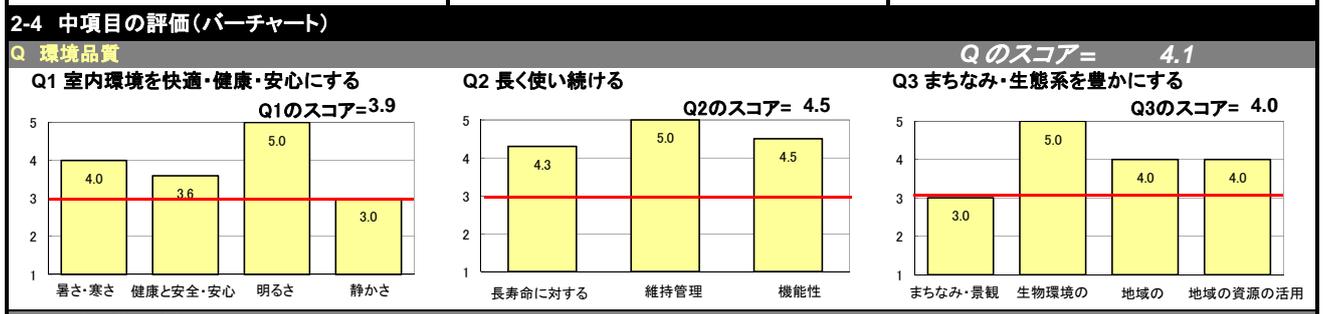
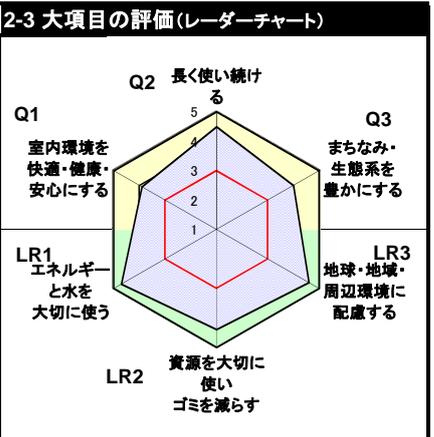
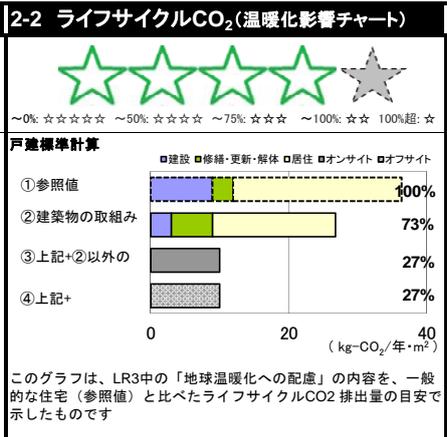
# CASBEE® 戸建-新築

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 戸建-新築 (2010年版)

■使用評価ソフト: CASBEE\_DH-NC\_2010v1.2

| 1-1 建物概要   |                      |    | 1-2 外観  |                           |                  |
|------------|----------------------|----|---|---------------------------|------------------|
| 建物名称       | サステナブルハウス裾野(市川邸)     |    | 仕様等の確定状況  | 建物の仕様<br>持ち込み家電等<br>外構の仕様 | 確定<br>一部確定<br>確定 |
| 竣工年月       | 2012年11月             | 竣工 | <備考>  |                           |                  |
| 建設地        | 静岡県裾野市               |    |   |                           |                  |
| 用途地域       | 第二種住居地域・第一種中高層住居地域   | 確定 | 評価の実施日  | 2012年7月9日                 |                  |
| 省エネルギー地域区分 | IV                   |    | 作成者   | 上杉賢一                      |                  |
| 構造・構法      | 木造・在来軸組構法            | 確定 | 確認日   |                           |                  |
| 敷地面積       | 1,151 m <sup>2</sup> | 確定 | 確認者   |                           |                  |
| 建築面積       | 104 m <sup>2</sup>   | 確定 |  |                           |                  |
| 延床面積       | 169 m <sup>2</sup>   | 確定 |   |                           |                  |
| 世帯人数       | 5                    | 確定 |   |                           |                  |



|   |  |   |
|---|--|---|
| <p>日本住宅性能表示基準「5-1省エネルギー対策等級」における等級4を超える、熱損失係数2.07を確保。夏期日射遮蔽率を確保し日射取得できる措置(遮熱低放射断熱ガラス、低放射率断熱ガラス、外付付ロールスクリーン、ハニカムサーモスクリーン、断熱障子、すだれ取付用パイプ、屋根軒の出)夜間等防犯に配慮し外気を積極的に住戸に取り入れ通風、排熱をはかる措置(ホール及び居室の和室に採風戸、2階廊下吹抜に樹脂製グレーチング、LDK及び全ての居室は引戸または引違い戸)</p> | <p>日本住宅性能表示基準「3-1劣化対策等級(構造躯体)」における等級3を確保。外壁や屋根材に交換や補修が容易にできるガルバリウム鋼板製品を採用。設備配管等は維持管理し易いように給水、給湯配管(ヘンダー方式)、排水管及び給水給湯は基礎より部分より直接貫通配管とする。</p> | <p>周辺住宅への日照・通風を考慮し建物高さや屋根形状で設計。既存建物を含む敷地内の樹木を移植等によりほぼ全て保全し従来からの周辺環境を害することなく住宅の建築にあわせて整備。</p>                              |
| <p>高断熱性能の確保と高効率設備による省エネ措置(ベントストロープ、トプランナー基礎のエアコン、各省エネ家電、エコキュート、断熱浴槽、ヘンダー方式給湯配管、断熱給湯配管、断熱追い炊き配管、節水型便器、各節水水栓、食器洗浄機)等。太陽光発電5.5kw(7.7kw)の発電出力により創エネを図りHEMS接続により電力消費量の「見える化」を行い省エネ生活を支援。</p>   | <p>柱・梁等の主要構造材の過半をすしおか優良木材「持続可能な森林から生産された木材」を使用。生産段階及び施工段階においてフレカドットにより副産物の発生を抑制。また断熱材にリサイクルガラスを主原料としたグラスウールを使用し壁・天井下地材にプラスチックボードを採用。</p>   | <p>敷地の概ね7割を土壌養分と補給または砂利敷きとして雨水の浸透や保水により雨水排水負荷や熱的負荷の低減を図る。また敷地断続の水路の管理をすることにより周辺環境の保全を図る。既存樹木(低・中・高)を周囲の通風を考慮し剪定、一部移植。</p> |